■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

読書活動から言語能力向上へ 一マルチメディアDAISY図書と読書活動

東京都立光明学園 主任教諭 逵 直美

はじめに

昨年度の光明図書館元年から引き続き、今年度も読書活動充実事業の研究指定校(3年次)として蔵書整備・貸出機能を強化し、読書活動の充実から言語能力の向上を目指した取り組みを行っています。

東京都特別支援学校読書活動 研究会の立ち上げ

(1) 設立の経緯

東京都教育委員会指導部特別支援 教育指導課は、2017年度から2020年 度まで東京都特別支援教育推進計画 (第二期)・第一次実施計画に基づく 「言語活動及び読書活動の充実事業」 において、読書活動の研究推進をして きました。その一翼を担ってきた研究 指定校の中から、光明学園、鹿本学園、 八王子東特別支援学校の3校が運営母 体となり、本事業の研究成果を基に、 さらに実践研究を積み重ね、全都立特 別支援学校の読書活動の充実と発展を 目指して研究活動を進めるために設立 しました。

(2) 研究会の目標

障害のある児童・生徒にとっての「読書習慣の習得」、「学習の基盤となる資質・能力の育成のための読書活動の推進」、「特別な配慮を必要とする子供の読書環境整備の推進」、「読書の質の向上」の観点から、特別支援学校における読書活動の在り方を研究します。

(3) 研究会の活動

研究会には、当学園の読書活動推進 チームが参加しています。第1回は、 2021年8月3日に光明学園で開催し、 都内25校40名が参加しました。各校の 実践発表から読書活動推進の具体策を 共有できました。2学期末にも都内特 別支援学校で開催され、当学園ではこ の研究会の成果報告を2022年2月5日 光明学園第5回全国公開研究会で発表 する予定です。

光明学園の読書活動

(1) 読書活動推進チームの発足

研究・学習指導・情報・図書・司書 教諭・国語科などから読書活動推進

チームを構成し推進しています

(2) 貸出・返却を電子化したシステムの導入

今年度は、電子化したシステムで貸出・返却が本格的に行われています。 フリーソフトウェアを用いて、各児童・ 生徒に個人貸出カードを発行し、図書 にバーコードを貼りました。

貸出の際には、①自分のカードを読み込む→②図書のコードを読み込む流れで操作手続きが終了という手順です。

バーコードのシステムで、子どもたちが一人でまたは支援を受けて貸出・ 返却ができるようになりました。

(3) 読書推進月間と表彰

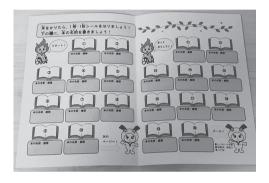
学期ごとに読書推進月間を設定し、 たくさん本を読んだ子どもを表彰し読 書活動への意欲を高める活動を行って います。

読書月間は、6月・10月・2月の年3 回行います。表彰は、学期末に行います。



(4) 図書カード



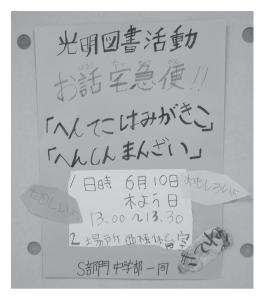


(5) マルチメディアDAISY図書の活用

①お話宅急便 電子図書の活用

生徒がおすすめのお話を選んで電子 図書(マルチメディアDAISY図書)で 紹介する活動です。

お昼休みを利用して読書活動を推進 し、司会進行など生徒が行っています。 校内で好評な活動で、小学部の子ども たちはこの取り組みを楽しみにしてい ます。毎回、たくさんの子どもたちが 視聴しています。現在は、中学部の子 どもたちが中心的に活動を行っており、 他学部に活動を拡がることに期待して います。





②GIGAスクールの端末に、わいわい 文庫(ブルー版)のインストール

小学部と中学部に配布されたiPadに、 わいわい文庫のブルー版のお話をイン ストールしました。家庭と学校の連携 を深め、読書活動が活発になることに 期待しています。

(6) お話の木 図書の紹介会活動

各学部の子どもたちが参画し、読書 推進月間に読んだ本の感想などをメッセージカードに記入して掲示しています。視覚的にどの学部がどんな本を読 んでいるか啓発できる活動です。学期 ごとにお話の木に各学部で色分けした 葉っぱや果物などのカードにメッセー ジを書いて掲示します。



(7) オリジナルPOPと「ポップコンテスト」 の活動

子どもたちがおすすめの本のPOPを作成し、優れた作品に賞を与え、読書活動への意欲を高める活動です。研修会でPOP作りとはどういうものか教員が学び、子どもたちの活動に還元しています。

また、鹿本学園とPOPを交換して子どもたちが投票を行い、優れたPOPを表彰しています。他校との読書活動の交流は、子どもたちにとっても教員にとってもいい刺激が得られる活動になっています。





(8) 図書だよりの発行

Let's読書! 光明学園图: 令和3年6月1日発行 第1号 ~読書で学校をつなぐ~

本校拠点で電子化した貸し出しが始まります

令和3年6月1日(火)から、貸出・返却 を電子化したシステムを導入します。各児童・ 生徒に個人貸出カードを発行し、図書にも光 明学園のバーコードを 1 冊ごとに貼ってあり ます。貸出の際には、①自分のカードを読み込 む。②図書のコードを読み込む。2つの操作で 手続きが終了します。返却の際には①図書の コードを読み込むだけです。貸出は 1 回2冊 で期間は1週間です。非常に扱いやすいシス テムで、先進校でも活用されています。児童・ 生徒がコンピニエンスストアの POS システ ムと同じ操作ができるので大好評です。 分教室拠点にも今後整備を計画しています。



発行者 校長 田村 康二朗

6月は読書推進月間です

電子化したシステムの導入を記念して、6 月1か月間を読書推進月間とします。児童・生 徒全員に誘書カードを配布して、1冊借りる ごとに1枚シールを貼ります。月末にカード を集めて各部門・学部で貸出数上位の児童・生 徒を1学期終業式で表彰します。 カードには 借りた本の名前や感想なども書いてもらえる と嬉しいです。



読書活動を推進します

光明学園の図書館で借りた本の家庭への持 ち帰りを推進します。御家庭でもぜひ本を続 方機会をもっていただき、感想などをお知ら せください。児童・生徒にヒットする本が見つ かれば、そこから興味・関心の幅が広がってい くことを期待しています。御家庭でも数分で 構いませんので、学校から持ち帰った本を読 んでみてください。

読書習慣を学校在校中に身に付けること で、卒業後の社会参加の際に、地域の図書館の 利用も視野に入ってきます。ぜひこの機会に 御家庭でも読み聞かせに Try してみてくださ い。本のリクエストもぜひどうぞ!

米田学園跡書推准チームを立ち上げました。 図書担当・学習担当・情報担当と多岐にわたる チームが読書活動を推進していきます。

担当 相原陽子

Let's読書!米耶学園图書館だより

令和3年10月4日発行 第35

第2回 Let's 練事月間スタート!

9月初め、児童・生徒のみなさんが要体み中に時んだ本が返却コーナーに沢山並んでいました。要体み中 にも読書の習慣が継続されていたことが分かり、とても嬉しく感じました。新しい図書コーナーには入荷し たばかりの本が沢山並んでおり、冊数も増えてきています。6月のLet's 読書月間では、読書奨励賞に選ば れた 10名が表彰されました。10月からは2回目のLet's 読書月間が始まります。2学期の終業式に、ま た表彰式を行います。本を読むことで沢山の人や知識と出会うことができます。読書を通した素敵な出会い を楽しんでください。自分が読んだ本を紹介したり、友達が読んでいた本を読んで思想を共有し、イメージ をふくらませることもとても良い経験になります。そのために「お話の木」を用意してあります。たくさん 感相を寄せてもらうると オレンジの葉が増えていま紅葉していまます たくさんの感相を待っています







「新しんな」コー

光明学園POPコンテストはじめます!

10月より読書活動推進の一環として読書月間と共に、光明学園 POP コンテストに向けて POP 作りに取 組みます。コンテストで選出された優秀作品については都立廐本学園と「光と虹の友情校」として、作品を交 換し2校でPOP コンテストを行う予定です。本のPOPとは、読んだ本について、まだその本を読んだこと のない人にその本の面白さや魅力を言葉や絵で伝えるものです。本屋でも最近よく見かけますね。 夏休みに 教員対象の研修があり、講演された POP 王こと NPO 本屋大賞理事の内田剛さんによれば、 POP づくりの 極意は「シンプルに、インパクトを重視して、使えるものは何でも使って表現し、つくることを楽しむこと」だそうです。この極意をもとに授業で作成していきます。※作品は校内 POP コンテストを開催して「光と虹 の友情校」相互に交流した後、選ばれし作品には、こちらも2学期終業式に表彰される予定です。児童・生 徒の豊かな発想を楽しみにして下さい。POP コンテストに提出する本は図書の本、もしくは自宅にある本で も構いません。また個人や共同作品でも問題ありません。原則1人につき、1作品までです。







(9) 図書館を家に持ち帰ろう

長期の休みの期間や入院する生徒に、 マルチメディアDAISY図書を貸し出す 活動を行っています。読み聞かせ機能 があるので、一人でお話を聞くことが できます。iPadの中にたくさんの本 が入っているのでとても便利で病院で も衛生的でコロナ禍の中でも活用でき るものです。学校での読書活動が家庭 でも継続でき、卒業後の生涯学習とし て読書がつながるきっかけになってい ます。

まとめ

当学園の読書活動は、つぎのことを ねらいとしています。

- ① 子どもたちの自主的・自発的な学習活動や読書活動の充実を図る。
- ② 子どもたちが自ら本を探求・選出する力を育む。
- ③ 子どもたちが本の魅力を伝えあう活動を通して、知的好奇心や学習意欲につなげる。

この読書活動のねらいは、この活動が推進される先に、子どもたちの言語活動能力が向上することにつながると考えます。

新学習指導要領の改訂をふまえて言語活動の充実が求められています。言語は知的活動の基盤であると共に、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、豊かな心を育むうえでも、言語に関する能力を高めていくことが重要であるとしています。このことから

も読書活動を推進し、生徒の思考力・ 判断力・表現力などを育む観点から言 語に対する関心や理解を教員間で深め ながら言語環境を整える取り組みを継 **続していきたいと考えています。今後** の読書活動の推進に向けて、発達段階 や生活年齢を考えながら、①多くの本 に親しみ読書の幅を拡げる、②内容に 共感したり将来のことを考えたりする きっかけになる読書活動、③知的興味 に応じた幅広い読書など効果的な取り 組みの検討や児童・生徒間で本を薦め あうなど、さらに読書への関心を高め る取り組みを充実させることや情報環 境を整えることなどを検討し、読書活 動から言語能力の向上を目指す実践を 進めていく予定です。

